

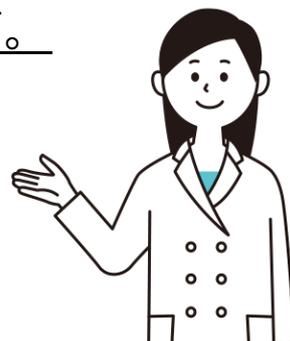
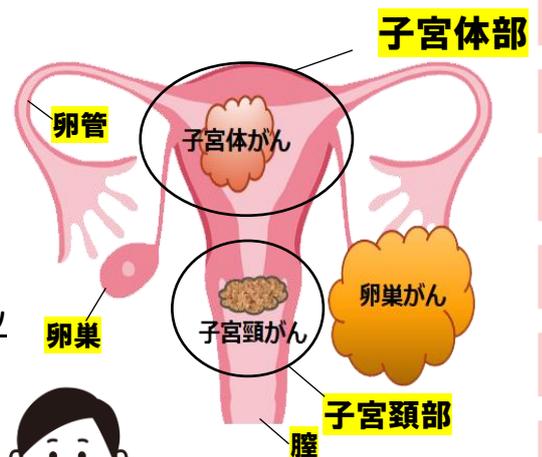
子宮頸がん検診を受けられる方へ

1、子宮頸がんはどんな病気？

子宮頸がんは、子宮の入り口の子宮頸部にできる「がん」です。わが国では、年間約 11, 000 人が子宮頸がんにかかり、約 3, 000 人が亡くなっています。20 代後半から増加し、30 代から 50 代で多くなります。

子宮頸がんの多くは、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染とされます。HPV は、性交渉により感染し、女性の多くが一生に一度は感染するといわれています。ほとんどの場合、感染は一時的ですが、感染が長期に続く場合に、がんを発症させることがあります。

子宮頸がんは、初期症状がほとんどないため、早期に発見するには、定期的に子宮頸がん検診を受けることが大切です。



2、子宮頸がん検診を受ける際の注意点

- 1、子宮頸がん検診は、生理中は血液が混じってしまうため正確な検査ができません。
- 2、良性の病気（子宮筋腫や子宮内膜症など）で、子宮全摘出術を受けた場合は、子宮頸がん検診の対象にはなりません。
- 3、性交渉の経験がない場合、子宮頸がんを発症する危険性は非常に低いため、検診の必要性は示されていません。

3、子宮頸がん検診の流れ

- 1、問診・・・診察室で医師からの質問に答えます。
その後、別室に移動し、下着（ショーツやストッキング）とズボンを脱ぎ、内診台に上がります。スカートはそのまま、上半身も脱ぐ必要はありません。



2、視診

膣鏡という器具を、膣内に挿入し、子宮頸部（子宮の入り口）を観察します。

3、細胞診

ブラシやヘラで子宮頸部をこすり、細胞をとり、異常な細胞がないか顕微鏡で観察します。痛みもなく、短時間で終わります。

4、内診

医師が、片方の指を膣内に挿入し、もう片方の手でお腹を押さえます。子宮の大きさや形を調べます。

おつかれさまです。これで終了です。



4、子宮頸がん検診後の注意点

子宮頸部（子宮の入り口）をこすっているため、出血をすることもあります。お風呂は問題ありません。出血が生理よりも多く、続く時は、健診センターへ連絡をください。

TEL 0248-75-3111 健診センターまで

5、子宮頸がん検診の結果について

「がんの疑いなし」・・・精密検査が不要

次回の子宮頸がん検診を受けてください

「がんの疑いあり」・・・要精密検査

必ず医療機関を受診し、精密検査をうけてください。

不正出血がある場合（生理以外に出血がある、閉経したのに出血がある）、生理か不正出血かわかりづらい場合には、子宮頸がん以外の病気の可能性もあるため、子宮頸がん検診ではなく、婦人科外来を受診してください。

公立岩瀬病院

